資料３

様式

令和6年3月19日

区自治協議会提案事業　事業評価書

秋葉区自治協議会
第1部会

区　分	内　　容
テーマ・事業名	きらめきサポートプロジェクト 【事業費予算　　1,630千円】
事業目的・概要	地域コミュニティの活性化や福祉、防災、文化振興など、様々な地域課題の解決につながる取り組みを地域の団体と協働で実施し、「きらめく秋葉区」に向けたまちづくりを目指す。
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	(1)小須戸まちなか演奏会～町屋とお寺と灯りと音楽～ 【小須戸コミュニティ協議会】 ・会議：7/18 ・イベント：10/14 会場：小須戸本町通周辺 内容：演奏会、竹灯籠、行灯ライトアップ。小須戸中学吹奏楽部のほか、様々な奏者が参加。 (2)第1回聞き書き養成講座－国鉄と茶畑の歴史・文化を発掘する－ 【NPO法人　はぐハグ】 ・会議：9/15 ・イベント：12/10、1/14、2/28 会場：新津図書館 参加人数：延べ12名 内容：参加者とともに国鉄と茶畑について地域の語り部から情報収集し、冊子にまとめた。 (3)アキハファミリーショー～AKIHA FUJIN ROCKFESTIVAL × DREAPYS～ 【秋葉区ファミリーショー実行委員会】 ・会議　8/9、11/24、1/25、2/20 ・リハーサル　12/28、1/21、2/10、2/25、2/27、3/2、3/7 ・イベント　3/10　参加人数：552名 参加人数：552名 会場：秋葉区文化会館 内容：音楽ライブ、しゃぼん玉ショー、マジックショー、キッズダンス、ワークショップ。応募の小学生もキャスト・スタッフで参加。 (4)秋葉湖周辺案内地図設置事業 【新津中央コミュニティ協議会】 ・会議：8/23 10/25 11/29 12/26 1/31 ・内容：案内地図設置（トリムコースや遊歩道なども表示 2000×1500mm　） (5)チョイ戦～「秋葉区」との出会いを通じて自分を知る～ 【チョイ戦】 ・会議:8/22 ・フリースペース開催：10月～1月の週2回 　利用人数：10名 会場：新津駅前「灯心文庫」 内容：フリースペースで高校生・大学生と交流。 ・チョイ戦交流会：2/3 　参加人数：15名 会場：新津健康センター 内容：参加者とワークショップを行い、アイデアの共有。

様式

令和6年3月19日

区自治協議会提案事業　事業評価書

秋葉区自治協議会
第1部会

事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	【個別事業】 （1）小須戸まちなか演奏会～町屋とお寺と灯りと音楽～ 　コロナ後に再び地域を活性化させようと、多くの団体・個人が参加し作りあげた。当日は会場に入りきれない人が出るほどに賑わい、小須戸の町中に癒しの音色と賑わいを創出できた。完成度が高い一方、自治協議会との協働のあり方について課題が残った。 （2）第1回聞き書き養成講座－国鉄と茶畑の歴史・文化を発掘する－ 　国鉄と茶畑に関わる人々の話を集め、冊子にまとめることができた。講師を含め、参加者同士のネットワークを深め、語り手の方々にも喜んでもらえ。さらに、5名の参加者が聞き書きの技術を学び、習得することができた。 （3）アキハファミリーショー ― AKIHA FUJIN ROCKFESTIVAL × DREAPYS 　秋葉区の特産品であるもち麦をPRするための「もち麦の歌」の披露や自治協議会の活動紹介、ブースの設置などを行い、もち麦と自治協議会の認知度向上に大きく貢献した。また、きらめきサポートプロジェクトを通じずに、入場料を徴収することで継続可能な可能性を感じることができた。 （4）秋葉湖周辺案内看板設置事業 　秋葉湖周辺でのキャンプやマウンテンバイクの訪問者増加に伴い、より快適な利用と地域の魅力を伝えるため、関係者との密な打合せを行った。行政手続きに難航した場面もあったが、無事看板を設置することができた。 （5）チョイ戦～「秋葉区」との出会いを通じて自分を知る～ 　子どもと大人のつながりや世代間のアイデア共有を促進することを目的として、地域と若者を繋ぎ、地域で活躍できるサポートを行った。現役大学生が、自主的に「きらめきサポートプロジェクト」のことを知り、応募し、大学生ならではの発想で、他の高校生、大学生が地域で活動するきっかけを作ったことは、大きな成果であった。 【全体を通して】 ・自治協議会との協働に関して、何が協働となるかが自治協議会にも提案者にも理解しにくい状況であった。来年度以降は、さらに分かりやすく例示する必要がある。 ・提案者との意見交換ができるのは二次審査会のみであり、落選した提案の中にも改善されればより良い取り組みになるものがあった。審査前に意見交換できる場を設けること、また提案書の作成や予算の使い方に不慣れな団体に対して、育成の観点からサポートを行いたいと考えている。
備考	

様式

令和6年3月19日

区自治協議会提案事業　事業評価書

秋葉区自治協議会
第2部会

区　分	内　　容
テーマ・事業名	交通　（生活交通支援／公共交通利用促進）・　防災（防災講演会） 【事業費予算　300千円】
事業目的・概要	【交通】 「秋葉区生活交通改善プラン」に基づき、地域の生活交通支援事業の検証と課題改善の支援をしていき持続可能な事業にしていく。また、区内の公共交通利用促進を図るための情報を発信していく。 【防災】 防災に関する講演会を開催することで、災害時の人的被害の軽減につなげられるよう、区内の防災意識の高揚を図る。
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	【交通】生活交通支援／公共交通利用促進 ①7月3日（金）　令和5年3月から本格実施した満日地区生活交通についての振り返りを運行主体である満日コミュニティ協議会、満日地区福祉施設、秋葉区社会福祉協議会で実施。 ②9月22日（金）　区バス乗車体験、小須戸まちづくりセンターで、区長と公共交通について勉強会を実施。 ③11月30日（木）　金津地区コミュニティセンターにおいて、都市交通政策課職員による金津線についての勉強会を実施。 ④12月26日（火）　都市交通政策課職員による路線バス金津線についてアンケートの内容を検討。公共交通ガイド検討。 ⑤1月30日（火）　公共交通ガイド検討 ⑥3月29日（金）　公共交通ガイド発行 【防災】防災講演会 〇日時：令和5年10月15日（日）13:30～15：00 〇会場：秋葉区文化会館大ホール 〇内容 ・第1部：防災講演「災害に対する自治会長の心構え」 （講師　岩船郡関川村高田集落区長　須貝秀夫氏　須貝早苗氏） ・第2部：歌いながら防災活動を盛り上げよう （講師　新潟県防犯アドバイザー　中村嘉紀氏） 〇聴衆　約150名
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	【交通】 〇生活交通支援の要は、地域のニーズや実態の把握が先決である。今回の勉強会やアンケートについては的を得た作業で、収支率が低い路線である「金津線」の改善に第1歩を踏み込むことができ良好であった。 〇公共交通ガイドについては、文字の大きさ、配色などを子細に検討し、高齢者にも利用できるように分かりやすく作成した。 〇満日の生活支援について、満日コミュニティ協議会と地域内の福祉施設と協働で買い物支援事業を月2回実施。利用者から大変喜ばれている。自治協議会第2部会は相談等あったら随時支援していく。 【防災】 〇被災された女性の体験を聴くことのできる講演会はめずらしく、また、一方的な講演ではなく対談方式により企画者の依頼に応じて、分かり易く、被災当時の生々しい体験を語ってくれたので、聴衆者から心に響いたなど労いと称賛の声が聞かれ良好であった。 〇防災は一人一人の正しい行動が大切で、今後も継続的に防災活動を行う必要がある。
備考	〇能登半島地震に関連して、佐渡沖に地震が頻発しており、また、令和6年度は新潟地震から60年、中越地震から20年の節目となることから、防災対応の事業を第2部会の重点事業として取り組む。

様式

令和6年3月19日

区自治協議会提案事業　事業評価書

秋葉区自治協議会（第3部会）

区　分	内　　容
テーマ・事業名	Akiha　おとな大学 【事業費予算　　200千円】
事業目的・概要	秋葉区の特色や史跡・旧跡、魅力ある歴史などを学んでもらうことで地域への愛着や興味関心をさらに高めるとともに、学びを次世代に引き継ぎ、未来へつなげる機会とする。
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	【もち麦cooking～パン作り教室】 会場：小須戸地区ふれあい会館調理室 実施日：令和6年2月16日（金）12：30～16：00 講師：親和福祉会　ぶどう工房 参加者数：13名（16名出席予定　当日欠席3名） リハーサル：令和5年12月8日(金)14：00～ 【花とみどりの講演会：秋葉区は植物の宝庫「身近な植物を楽しもう」】 会場：秋葉区文化会館 実施日：令和6年1月14日（日） 講師：伊藤泰師 氏（新潟県立植物園友の会事務局長） 協力：新津高校生 参加者数：100名
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	【評価】 ①もち麦cooking ・13名中4名がもち麦を知らなかったが、半数以上が知っていることが明らかに。 ・告知後すぐに満席となり、区民の高い関心とニーズがあることが判った。 ・「親和福祉会ぶどう工房」から全面的な支援をいただき、パン成形5種類の指導や一次発酵までの工程の実演を効率よく実施。 ・リハーサルを設けたことで問題点を把握し、当日の流れがスムーズに。 ・会場の小須戸地区ふれあい会館は、パン成型やお茶会の場として参加者から高評価。 ・帰りにもち麦と関連レシピをお土産に渡し、もち麦への理解を深めることができた。 ・もち麦の効果効能の説明をフィリップで行い、もち麦普及のアピールに繋がった。
	②花とみどりの講演会 本講演会は、高齢者を中心に応募者が多かったが、植物園友の会や高校生など多様な年齢層から参加があり、地域の自然保護や植物への関心を高める良い機会として高く評価された。特に新津高校生徒による絶滅危惧種の保全活動の事例発表が参加者の興味を強く引き、満足度は93%に達しました。一方、幅広い講演内容に期待感があるなか、初心者向けの内容にやや物足りないとの声もありました。
	【今後への提案】 ①もち麦cooking ・もち麦を使用したお料理教室の開催提案（スープなど工程の少ないものから）。 ・もち麦キャラクター「もちもち麦太郎」の着ぐるみグッズ制作。イベントで「もち麦の歌」を流しアピール。 ・防災食としてのもち麦の使用法を提案するなど、防災意識の高まりに合わせた活動。 ・アキハスムプロジェクトのHPでのもち麦キャラクター、歌、ダンス、レシピ、動画などを掲載。 ・より簡単で40代以上に受け入れられる調理方法の開発。 ・男性の参加を増やすための工夫（開催日時、参加枠の設定など）。 ・山の手地区を「もち麦の里」と位置づけ消費拡大、関連事業に繋げてはどうか

	②花とみどりの講演会 ・講演内容をオンラインで提供し、より多くの人たちへ関心を持ってもらう。 ・身近な植物やヒゴスミレ保護活動を中心としたトレッキングの企画。 ・「Akihaおとな大学」の対象年齢層を明確にし、情報提供をSNSやウェブサイトを通じて強化する。自治協の認知向上のために広報活動の見直し。 ・他部署や企業との連携を深め、地域の歴史を含めた多様なテーマによる活動を計画。 ・講演後の質問時間の設定や複数講師による多角的な視点からの提供を検討。
	【課題】 ①もち麦cooking ・もち麦の価格が高く感じることが障壁となっている。 ・健康面、美容面でのアピールや、商品開発のため、企業や学生を巻き込むことが必要。 ・男性の参加推進。 ・大量消費に繋がる民間食品関連事業者との事業展開の重要性。 ・インフルエンサーやキャラクターを活用した大規模なプロモーションの検討。 ・「もち麦の歌」の活用や、効果効能を説明するフィリップの作成などアピールについて課題が残る。
	②花とみどりの講演会 ・歴史テーマには関心が高かったものの、異なるテーマに対する要望もあり、情報の蓄積が重要。 ・植物園友の会の活動PRが長すぎたとの指摘があり、タイムスケジュールの工夫、受講者を増やす広報手段の改善や自治協の認知度向上が課題。 ・次年度トレッキング企画では、具体的な計画や雨天対策も含めた準備が必要。 ・次世代に区の魅力を伝え、また自治協の知名度向上や区のイベントとしての発展を目指すためには、若者から子育て世代まで幅広い年齢層が参加できる魅力的な講座が必要。
備考	

様式

令和6年3月19日

区自治協議会提案事業　事業評価書

秋葉区自治協議会
（広報部会）

区　分	内　　容
テーマ・事業名	コミュニティFMを活用した秋葉区自治協議会PR事業 【事業費予算　800千円】
事業目的・概要	自治協議会の活動を自治協議会かわら版「あきはくはつものがたり」の発行 FM新津を利用して、スポットCM・FM版「あきはくはつものがたり」番組放送 秋葉区役所ホームページ利用して自治協・まちづくり活動のレポート記事の掲載により 自治協議会活動のPRを行う。
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	■FM版「あきはくはつものがたり」 毎月第2水曜日の12時00分から30分番組の放送 （再放送は同じ週の土曜日9時から） ■スポットCMの放送 8～3月：合計放送本数250本 ■かわら版「あきはくはつものがたり」を活用したPR　2号/年（運営事業費） 第33号：R5.9.3発行、第34号：R6.3.17発行 第33号は約21,500部、第34号は約21,000部発行し、新聞折込および個別配送のほか、公共施設等に配置 ■区役所ホームページ 広報部員による自治協議会提案事業等のレポート掲載
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	**■コミュニティFMの活用** ○区民にとって身近なコミュニティFMを使っての情報発信は自治協議会の活動を伝えるためには有効な手段であると思う。 ○自治協議会活動PR事業として、年間12回（再放送を含め24回）のFM放送トーク番組を行ったが、今後も継続すべきと思う。 ○スポットCM直近の事業PR継続が必要。 ○それなりの成果・効果はあったものと推察するが、どれだけの方がその放送を聴取したのか。 ○トーク番組や、自治協議会の認知度をさらに高める必要があると感じた。 ○今後FM新津との打合せの際、出演者の個性が出るように、例えば、委員同士がかけ合いでトークができるように、親しみを覚える進行台本の工夫、また、提案事業の参加者にインタビューしてライブ感を演出する工夫が必要ではないか。 **■かわら版「あきはくはつものがたり」の発行** ○自治協議会の活動や地域への情報発信を定期的に続けることができたこと、その発信を通じて、イベント等に参加していただく方々がたくさんいらっしゃったことについては、今年度の広報部会の活動が充実していたといえるのではと感じている。 ○新聞折り込みや個別配送などによる区内世帯への発送により、この紙媒体による広報紙としての認知度はかなり高いことが伺えた。 ○電子媒体に慣れていない人にとっては、紙媒体の「かわら版」が効果的だと思う。 ○作成プロセスにおいてより見易く自治協議会の活動内容が伝わるような紙面作りにやりがいをもって取り組むことができた。 ○形に残る、読み返しができるのは、一過性にならず魅力だと思う。 ○最近の新聞離れの中、申込で「市報にいがた」と一緒に、自宅に届くシステムがあることを知ってほしいと思う。 ○この発行は継続していく必要を感じており、自治協議会の活動のPRに参加された一般の方々の声や活動風景をもっと掲載しても良いのではないかと思う。 ○4コマ漫画も取り入れることで読者が楽しむこともできるため、続けたい。

	■秋葉区役所ホームページ利用による自治協活動等のレポート掲載 〇初めての取り組みであり、広報部員のレポートが基本になるが、委員の協力と参加者の声等により、取り組み強化とホームページの掲載の方法を再考したい。 ■全体を通して 〇FM 版とかわら版「あきはくはつものがたり」の作成、秋葉区ホームページに取り組むも効果がどうか、掲載内容、特に参加者の声、委員の個性等を再考してライブ感を出したい。 〇自治協議会の存在を知ってもらうため、皆さんでおそろいのポロシャツで「にいつ夏まつり」の「新津松坂流し」に参加した。 〇若い世代、次世代の方々に発信していく媒体について、検討する必要があるように感じる。 〇SNSや映像媒体を使った広報も検討したい。 〇トーク番組については、認知度をあげ、自治協議会を広報するために、内容、手立てを考えたい。（反応を求めるなど、まずは状況を把握する方法を検討したい。） 〇読者の増加や読むまでの気軽さを求めることも必要。 〇広報委員の皆様の努力で、しっかりPR出来たのではないか。
備考	

様式

令和6年3月19日

区自治協議会提案事業　事業評価書

秋葉区自治協議会
ひな・お宝めぐり部会

区　分	内　　容
テーマ・事業名	秋葉区ひな・お宝めぐり 【事業費予算560千円】
事業目的・概要	【事業目的】 秋葉区全域で「ひな・お宝めぐり」を実施することで、各コミ協、商店街の活性化を図るとともに、区内はもとより区外からの人の流れを生み出す。秋葉区の新春行事として育てたい。 【概要】 区全体が関わって秋葉区を盛り上げるような祭りとなるよう、各コミ協や秋葉区の施設・団体など区民誰でも気軽に参加できるような取り組みを検討する。（吊るし雛飾りの制作募集、吊るし雛飾りの展示施設・企業・店舗募集など）
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	○5月　1号委員と希望委員、計16名による横断的な特別部会としてメンバーが決定 ○8月　第1回部会を開催し、部会長・副部会長を決定 ○月　「つるし飾り」の制作協力を各コミ協から呼びかけてもらい、参加団体を募集 ○11月～12月　「つるし飾り」制作説明会・講習会を、各コミ協、地域の茶の間等地域主催で実施 ○1月　区内165の団体、個人参加20人から約310個の「つるし飾り」が集まる ○2月～3月　ひな・お宝めぐり開催 ■つるし飾りの展示（185団体（個人含む）　308基） ・新津地域交流センター　54団体78基 ・荻川コミュニティセンター　18団体30基 ・新関コミュニティセンター　10団体20基 ・小合地区コミュニティセンター　13団体13基 ・金津地区コミュニティセンター　　13団体13基 ・小須戸まちづくりセンター　45団体、個人20名87基 ・小須戸地区ふれあい会館　7団体21基 ・その他（花の湯館29 、新津育ちの森3、新津健康センター9、区役所5、薬科大学、区バス）
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	**【評価】** ・参加団体数、つるし飾りの展示数など前年度に比べて増加していることは、区民からの広い支持がこの事業を支えていることがうかがえる。 ・子供から高齢者が楽しみながら丹精込めて作るつるし飾りはかなりの手間と時間を要するが、その過程で生まれる連帯感は生きがいに通じてこの事業の価値のひとつである。 ・幼児童の作品づくりは、子供達の間だけでなく家庭内のコミュニケーション、身近な町内での話題づくりにもなっていることから今後の事業継続に繋がる大事な部分である。 ・参加協力団体の皆さんや保育園児が展示会場に見学に来てくれる、この時期の恒例事業となっているのでぜひ続けていきたい事業である。 ・区全体で一つのテーマに取り組むことは、地域全体を盛り上げる意味でよいことだ。 ・地域の絆をより強くして、地域の活性化に大きく貢献したので今後もコミ協の事業として継続したい。 ・部会員同士のチームワークや、部会員と事務局との連携が図られ、充実した活動ができた。

	【課題・今後への提案】 ・「お宝めぐり」「商店街の活性化」の目標達成に向けて、商工会議所、商工会と商店街とコミ協一体となった事業にしていくためにも、部会のメンバーに商工会議所等まちづくりに関わりのある自治協議会委員を巻き込んで活動していきたい。 ・いつまで自治協の提案事業としておくのか、部会員だけではなく、この事業の継続を丁寧に検討する必要がある。あるコミ協では、展示会場へ来ることが困難な方への送迎支援を試みている。それぞれの11コミ協が地域の課題解決に向けた情報を共有して、更なる地域の活性化に貢献できる事業として継続していきたい。
備考	

様式

令和6年3月19日

区自治協議会提案事業　事業評価書

秋葉区自治協議会

コミュニティ未来ビジョン部会

区　分	内　　容
テーマ・事業名	コミュニティ未来ビジョン策定支援事業 【事業費予算　4，150千円】
事業目的・概要	秋葉区コミュニティ協議会単位での地域未来ビジョンの策定を支援し、地域経営の強化を図る
事業の実施実績 （実施回数，参加者数など）	【未来ビジョン策定】 　7月から12月の間、11の地域コミュニティ協議会で3回のワークショップ、座談会を開催しアクションプラン策定 【未来ビジョン全体発表会】 日　　時　　2月4日（日） 会　　場　　秋葉区文化会館 秋葉区感謝の集い第2部として、未来ビジョン全体発表会を開催し、各コミ協代表による成果発表
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	5年後、10年後を見据えて、持続可能なコミュニティづくりを、自治協が全体コーディネートし、コミ協がナビゲートし、「区民主動」で構築していくところに本事業の意義がある。同じ秋葉区内であっても、地域の人口、環境、資源はさまざまであり、ただし区ビジョンだけでは、残念ながらこうした地域差を丁寧にすくい上げられない限界がある。 　以下、各部会員が指摘するように、本事業に取組むことで、〈異業種・異世代交流と連携〉〈地域人材の発掘とネットワーク構築〉という点で大きな収穫を得られたとものと評価できる。今後、まとめられた行動計画を実行に移していくためには、資金とマンパワーの確保が課題となる。「コミ協単独で取り組めるもの」「他地区との連携・協働が必要なもの」「区全体で取り組むもの」「市として取り組むもの」と切り分けをおこない、優先順位をつけてロードマップに落とし込む。そうした作業が求められる。 ことに資金面は大きな課題である。各コミ協で、実に多くの事業が提案されたが、経費の算定とその確保、調達を支援する仕組みを提示しなければならない。すべてを「行政頼み」としない前提で、捻出策を提示することが今後の課題となる。 　令和6年度おいては、これらの現実的諸課題を、区や市といった行政サイドと念入りに協議しながら、自治協で継続的に検討し、前進させていきたい。秋葉区自治協と区行政の“知恵を出し合う協働”がまさに求められる。 ・ 想像していた以上に、各コミ協がそれぞれに地域力を高めたい気運を感じ取ることができたことを評価したい。これからのアクションプランを実行していく際に、秋葉区地域福祉計画が上位計画であることも視野に入れて取り組んでもらえるとよいと考える。 ・ 一つには、当面する地域の課題解決に、的確に対応した事業で、地域間の連携の構築強化につながる良好な事業であること。二つ目に、参加者は過去の枠にとらわれない活発な議論や、未来ビジョン策定会議の広報により、これまで自治会活動に関心のなかった人たちにも、地域活動に対する意識を高めることができたこと。

	地域と行政が一体になっての事業推進であり、今後大きい成果が期待できる。三つめに、全体発表会では高校生を起用し、わかりやすく丁寧な発表をおこなったことから、観覧者から好感を得ることができたことである。今後も幅広い世代を取り入れて、地域住民の信頼と期待に応える地域づくりのため、事業を継続していく。 ・ 秋葉区11あるコミュニティ協議会のすべてがビジョン策定に取り組んだことで、各地域が現状を直視しながら、近未来への展望を語り合う機会となったことは高く評価できる。また、若者たちの参加が多くなったことは、本事業の目的に沿う結果を示しており、若者たちのふるさとへの愛着心の低下という課題を見直すキッカケ作りの展望も見えてきた。 ・ 当初、進め方を含めて大きな不安があったが、他地区のワークショップへの参加を重ねるごとに地元開催の方向性が定まっていった。コミ協区にある小・中学校(計３校)には事前に打ち合わせをおこない、また、学校ごとにクラスで相談がなされた。3回にわたるワークショップでは、ふるさとに対する意見がリードするかたちで進行した。結果、6項目からなるアクションプランにまとまった。今後はその実現に向けて、このコミュニティ未来ビジョンの取組を通して築かれた関係を大切にしていきたい。課題としては、一つには今後の予算措置について、二つ目には(株)パッチワークAKIHAとの今後の対応がある。費用の点も含めて地域総務課で一括して対応していただきたい。 ・ 各コミ協単位で地域の多年齢層の住民から、地域ごとの未来への希望や意見を集約したという点で、たいへん意義のある取り組みだったと感じた。全11コミ協が3回に分けて継続的にワークショップを開いた事に敬意を表する。小・中・高・大学生などの若者たちを中心に据えて「地域の優位点」をあぶりだし、さらに「こうありたい姿」について話しあいを重ね、課題を明確化したこと。これは行政サイドの発想では思いつかない視点からの提起と、住民ならではの切実な要求を可視化することにつながった。今後は、共通項目を整理し区全体の必須課題とコミ協単位で実現可能な項目とに分ける作業が重要と思われる。 ・「５年先、10年先を見据えて」というタイトルのもと、小・中・高校・大学生という年齢層に参加を呼びかけること。特に、小学生の人選には一番苦慮し、結果断念してしまった。しかし、中・高生が頑張ってくれた。若い人も大人に負けず劣らずの考えを持っていると感じられた。課題としては、3回目の開催時期だったと思う。せっかくの「アクション」をまとめる段階で、高校生の参加がなかったのは残念であった。でも、提案には、寄せられたアイデアがしっかり残っている。実現に向けての原動力もある。これらを拡げていくのが次年度での課題である。小さな歩みではあるがスタートしている。失速しないように頑張って行く。 ・ 秋葉区全体で共通のテーマで取組をすることは、地域の活性化という観点からは結構なことだと思う。当地区では、前年度に「地域活性化委員会」を立ち上げて、一定の提案を受けていたので、その具体化を図ることを目的に取り組んだ。自治会長、農業従事者、高校生など様々な分野から28名の参加で3回の会合をもち、6部門7項目のプランが提示された。今後、未来ビジョンで提案された内容を周知するために、「コミ協だより」の特集版を組んで全戸配布することとしている。また来年度以降、プロジェクト委員会ないしワーキンググループを組織して具体化に向けた検討を推進していきたいと考える。その際、これらの実施に当たっての予算の裏付けが必要となる。それが今後の課題である。 ・ コミ協が未来に向けて取り組むべきこととして、「若者の居場所づくり」が課題として示された。新津駅前に立地する地域交流センターの有効活用、かつ、効果的に利用されるようデザインしていくことである。地区だけでなく、秋葉区のシンボルとなることを目指していくことがミッションであると考えている。今後、交流センターにかかわる関係者、コミュニティ未来ビジョンに参加した人たち、特に高校生のような若い人たちを含めたワーキンググループを組織していき、2024年はこのミッション達成に向け取組んでいく。 ・ 座談会を通じ、コミ協の活動が広く認知され、幅広い層が未来について意見交換でき有益な議論が行われた。終了後、次の段階に進むにあたり、専門的なアドバイスがあればスムーズな展開が図れるのではないか。提案として、区と自治協が協力し、コミ協主導の事業展開を支援できる体制が構築できれば、住民参加の活性化が進むと考えられる。課題として、一つには、ビジョンの立案段階で予算算出が漠然としており、行動計画が不十分だったこと。この点は、今後明確にする必要がある。二つ目に、3回の座談会で、行動計画までまとめる時間がなかったこと。この点は、座談会の回数を増やし、具体的な行動計画までできると良かった。その後の予算面での支援があると良い。三つめに、次年度の予算と使途を早期に明確化できると良いことである。

	・各コミ協から提起された地域課題の中で、一番多くのコミ協が示したものを取り上げたため、区内多くの地域で課題となっていると考える。また、1号委員だけでなく、区社協や福祉関連のNPO法人もメンバーとなったことで、より専門的な観点から企画され、自治協の良さを発揮できた。三つのコミ協で、ひとり暮らし高齢者宅を訪問するとしている点は評価できる。また、コミ協委員が訪問することで、ひとり暮らし高齢者の状況を把握でき、孤独を防ぐだけでなく、災害時の対応にも役立ち実効性は高い。交流会についても、地域とのつながりの一助となり、また、幼児との触れ合いで安らぎが得られるものと考える。事業の公益性についてはモデル実施としたため、さほど高いものとはならなかった。事業費については、20万円／協議会で実施でき、地域活動補助金の限度額内であることから、効率性もある程度高いと考える。来年度以降は、ひとり暮らし高齢者に対しては、対象コミ協数を増やし、自治協での成果をコミ協に還元できるよう、区社協やNPO法人などの協力を得て、希望するコミ協すべてで実施できるようにしていきたい。 ・秋葉区内の全コミ協で未来ビジョン会議が実施できたこと自体、大きな成果であった。各コミ協とも参加者に関し苦労したが、小・中・高校生やその親世代、高齢世代等いろんな世代からの参加を得て、それぞれのコミ協の特色ある未来ビジョンの作成ができた。同じ地域に住んでいても、普段顔を合わせることのない人たちと、地域の未来について前向きに話し合えたことは、かつてない経験であり、非常に良かった。今後は、この未来ビジョンの実施について検討し、その実現に向けた計画策定となるが、未来ビジョンを単なる絵に描いた餅としないためにも、今後実現に向けたプロセスをどう描くかがむしろ重要となる。 ・第一に、事業主体として自治協として何が出来たかを整理する必要があると思う。第二に、予算措置について自治協事業としては仕方ないのかもしれないが実際に立案に取り組む各コミ協に対してもっと柔軟に予算措置できなかったか整理する必要がある。（メンバー選定、座談会の実施、実行委員会の立ち上げほか）。第三に、未来ビジョン実現に向けた取り組みと自治協としてのサポート、支援のあり方の整理が必要と思う。
備考	